道頓堀中劇場廣告

明治十七年五月十日開場

抑電氣燈ノ裝置タルヤ僅カニ一ノ發電機械ト數尺ノ銅線トヲ用ヒ蒸氣機關ヲ以テ之ヲ運轉スルトキハ能ク數多ノ燈ニ点火スルヲ得然モ其火光ハ一箇ニシテ能ク數町ノ遠キヲ照シ宛然白晝ニ異ナラズ中秋ノ明月ト雖モ爲メニ三舍ヲ避ケザルヲ得ズ況ンヤ瓦斯ヤ蠟燭ノ如キニ至リテハ實ニ天壤ノ差アリト云フ可シ其功用ノ如斯著明ニシテ絶テ火災等ノ危險無ク其裝置ハ如斯輕便ニシテ從テ入費ノ要スル所ロハ他ノ燈火ニ比シテ巨額ノ減少ヲ致スガ故ニ現ニ世界各國ノ都府己ニ瓦斯燈ヲ設置シタル者モ漸ク變シテ電氣燈ヲ用ユルニ至ルモノ比々皆是ナリ是然カシナガラ夙ニ之レヲ泰西諸大家ノ究理ヲ疊子經驗ヲ積ミタル結果ニシテ就中當今世界ニ正名ナルモノハ米利堅人エヂソンドフランシス、フラッシ氏ノ發明セシモノニ係リ之レヲ我日本帝國一般ノ利用ニ供セン爲メ該發明者ヨリ專賣條約ヲ結ビ東京銀座街ニ點火シテ世人ノ眼目ヲ新ラタニセシモノハ實ニ大倉組商會ナリ以テ嚆矢トス然リト雖モ此電氣燈タルヤ東京ニ於テハ既ニ該商會ノ勉勵ニ因リテ大政府所有ノ三四工場ニ設置セラレタル有ルモ全國中公衆諸君ノ縦覧ニ供スルノ擧ハ殆ンド希レナリ茲ニ以テ小生此回大倉組ト條約ヲ結ビ過般西京祇園新地歌舞練場ニ點火シテ名聲ヲ博シタル仝組所有ノ機械ヲ移シテ當劇場ノ中ニ設置シ合セテ俳優一全ノ技藝ヲ抽ンデ當ル五月開場シテ新狂言ヲ演劇ノ所作ト發明電氣ノ功用ト二ツナガラ具備シテ以テ四方諸彦ノ御高覧ニ供セント欲ス是併シナガラ本朝演劇ニ電氣燈ヲ設置スルノ創始ニシテ實ニ開明世界ノ恩賴ト申ス可シ四方諸彦冀クハ永當々々賑々敷御來臨アリテ親シク御實驗御高評ノ程ヲ奉懇願ト云爾

明治十七年五月

大坂道頓堀中劇場

尾張屋頓首敬白

前狂言 **天満宮愛梅櫻松**

- 第壱 洛西嵐山花見の場
- 第二 天満敬来朝の場
- 第三 白太御殿時平七笑の場
- 第四 河内國道明寺の場
- 第五 嶋原出口見初の場
- 第六 同 沢瀉屋の場
- 第七 七條東寺縄手の場

中狂言 **奈須與市西海硯**

- 口 與市郎乳母争の場
- 切 小太郎兄弟出陣の場

切狂言（近頃新聞評判の早竹於申が履歴を仕組） **真似浪花朝日像**

- 第壱回 千日見世物小家の場
- 第二回 新金比羅前おかめの場
- 第三回 南阪町早竹於申内の場
- 第四回 今宮村三十両の場
- 第五回 難波村車夫善吉内の場
- 第六回 櫻ノ宮堤暗殺の場
- 第七回 藝妓小松化粧部家の場
- 第八回 神戸病院患者室の場
- 第九回 日向國延岡陣営の場
- 第團圓 中の嶋浪花踊の場

都踊りを其侭に 芦都へ写絵や **艶競花咲分** 南[illegible]の恋

二上り ありきたりく。治まる時も文治の。三ツの都とまたなく。歌舞の道さへ神の世の。岩戸神楽に事はじめ。登る旭のそれならで。今盛りのいろ香の花。姿かゞやく電気燈。

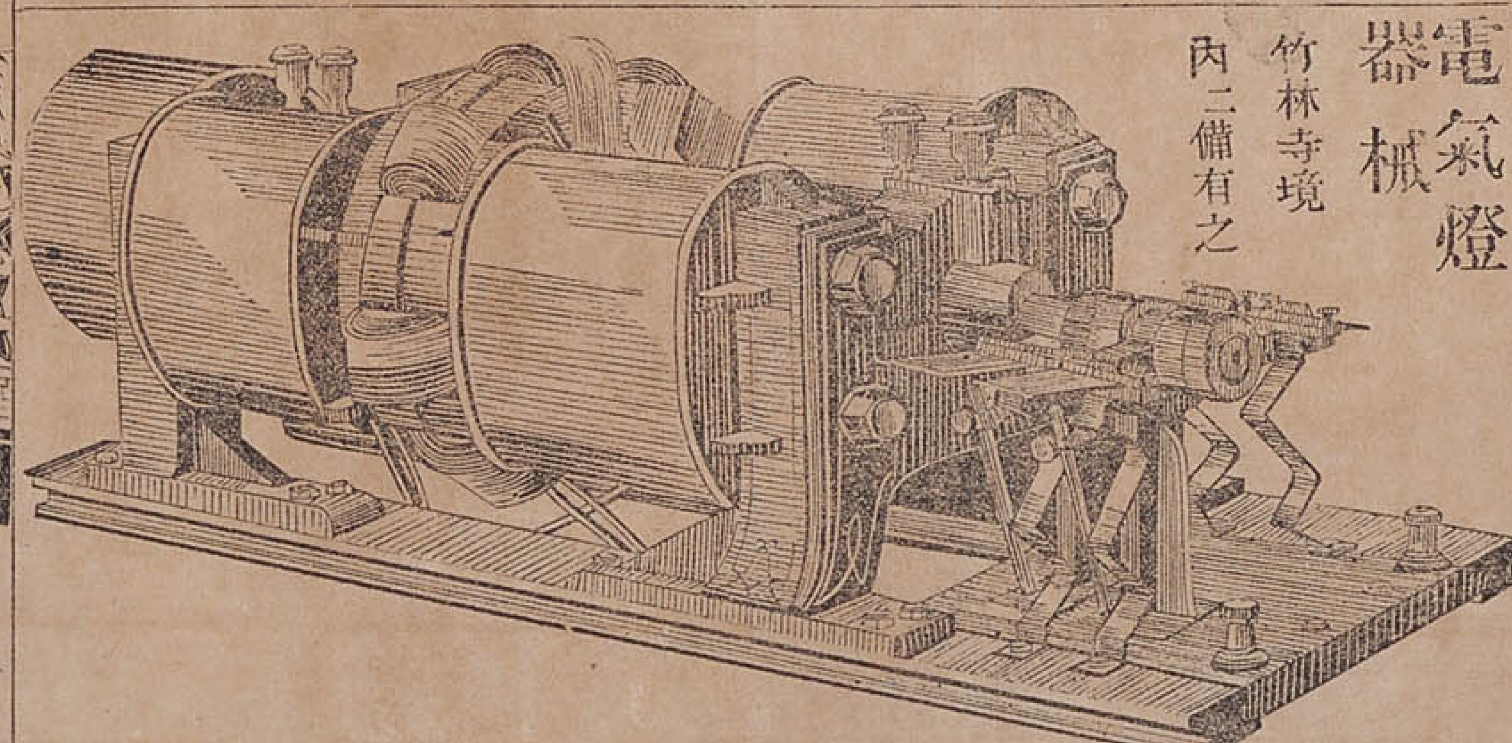
[illegible] 国は火数のまだ守りても。なみ浪花の一踊り。芦の柳と夕汐や。梅乃花びら五ツの襟。数多く[illegible]花街の。のきさゞく。ヨイヤサ

[illegible]

勝能進 勝諺藏 作　沂松八十助 振附　市川雛子連中

電氣燈器械

竹林寺境内ニ備有之



心斎橋二丁目玉置活版所

道頓堀中劇場広告　電気燈ノ装置タルヤ云々　文庫10-8021-3
早稲田大学図書館蔵／Waseda University Library